別紙

二十世紀梨の実止まり不良の状況について

平成２２年６月２１日
生　産　振　興　課

県内の各生産部の小袋被袋数がまとまりつつあり、２５％程度の減少が予想される。また、４月～５月が低温で経過したことから小玉傾向であることが懸念され、今後、農協団体、市町村等と連携して被災農家の支援を行っていく。

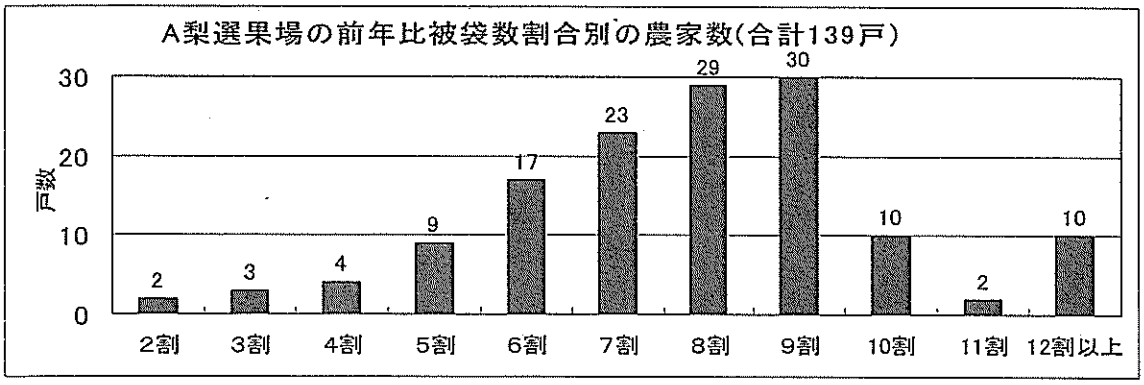
１　二十世紀梨の被袋数の状況（６月１８日現在）

各生産部からの報告を集計中。今年は前年に比べて２５％程度の被袋数の減少が見込まれる。

二十世紀梨小袋被袋数調査結果（全農とっとり）　（単位：枚、％）

組　合	２２年度見込み	２１年度実績	前年比	備　考
JAいなば鳥取市	137,000	155,000	８８	旧鳥取市
JAいなば国府	410,000	500,800	８２	鳥取市国府町
JAいなば郡家	1,352,800	1,873,500	７２	旧郡家町
河原果実農協	268,000	457,000	５９	
JA中央東郷	9,437,000	12,141,000	７８	湯梨浜町、旧北条町
JA中央倉吉市	4,821,950	6,888,500	７０	倉吉市、三朝町
JA中央大栄	210,000	265,400	７９	旧大栄町
JA中央とうはく	4,064,796	5,686,483	７１	旧東伯町
JA中央赤碕	2,252,700	3,073,850	７３	旧赤碕町
倉吉市果実農協	660,000	817,000	８１	
JA西部別所	546,300	592,800	９２	米子市
JA西部大山	3,592,583	5,271,100	６８	大山町
JA西部会見	719,400	1,044,600	６９	南部町
JA西部米子果実	937,550	1,236,450	７６	米子市
県　合　計	29,410,079	40,003,483	７４	

※　平成２１年度に比べ栽培面積が８％減少



２　農業団体及び県の対応

（１）　５月２７日、農業団体と県で「梨実止まり不良に対する対策会議」を開催し、今後、協力して次のことについて取り組むことを決定。

- ○ 各地区で開催される個別指導会により、被災農家の技術指導、経営指導を徹底
- ○ 販売対策について、全農とっとりを中心に今後検討（わけあり商品の販売等）
- ○ 要求中の県支援事業について連携して推進
- ○ 果樹共済制度の適用に向けた取組み
- ○ 新品種への高接ぎキャンペーンの実施（秋の高接ぎ指導）

（２）　今後の課題

- ○ 被袋数と果実品質の低下予測による生産動向の把握
- ○ 販売対策の具体的な検討（販売チャンネルの新規開拓）
- ○ 梨再生産につなげるための緊急融資制度の検討
- ○ 果樹農家に対する新たな支援施策の検討
- ○ 各市町村へ６月補正予算の概要を説明し、連携して取り組む

口蹄疫初動防疫に向けた本県の対応

平成２２年６月２１日
畜　　産　　課

宮崎県において口蹄疫の発生が継続していることから、関係者が共通認識を図り、本県で発生した場合を想定して、各機関が担う業務を確認する等、迅速かつ的確な初動対応を図ることとしている。

１ 宮崎県内の発生状況（６月１６日現在）

児湯郡 都農町、川 南 町、高 鍋 町 、新 富 町、木 城町 、東 諸 県郡国 富町、えびの市、西 都市、都城市、日向市及び 宮崎市の１１市町で発生　(290 戸、199,246 頭)

２ 鳥取県口蹄疫初動防疫連絡会議の開催

（１）開催日　平成２２年６月１１日（金）
（２）出席者　３２名（知事、市町村長、農業団体長、県獣医師会長、鳥取大学獣医学科教授）
（３）概　要　・宮崎県の現状と本県の今までの対応状況を確認
・鳥取県口蹄疫防疫対策マニュアルに基づく防疫措置の流れを認識するとともに農家、市町村、団体の役割を確認
・口蹄疫に備えて患畜等の埋却予定地の選定を依頼

※ 鳥取県口蹄疫防疫対策マニュアルは、６月１１日に一般向けに公表。

３ 地区別連絡会議の開催

各地区において、市町村、農業団体、農家、県機関を対象に鳥取県口蹄疫防疫対策マニュアルによる口蹄疫初動対応の勉強会を実施。

地　区	東部	八頭	中部	西部	日野
時　期	６月２２日		６月１７日	６月１９日	６月１６日
場　所	鳥取家保		倉吉家保	ＪＡ鳥取西部	日野総合事務所
参集範囲	市町村、農協、県（後日、農協主催による農家説明会を開催する予定）		市町村、農協、農家、県	農協、農家、県	県、日南町他

４ 現地対策本部に係る総合事務所内連絡会議の開催

鳥取県口蹄疫現地対策本部となる各総合事務所ごとに、６月１７日から順次実施し、各局、各課の役割等について協議。

【参考】

（１）県内の偶蹄類を飼養する全農場の緊急一斉消毒の実施
①第１回：県が告示し、５月１４日から１ヶ月間実施。
県が消毒薬（炭酸ソーダ）を購入し、全農場（対象６９８戸）の靴底消毒、車両消毒。

②第２回：県が告示し、６月１５日から１ヶ月間実施。
県が消毒薬（炭酸ソーダ及び消石灰）を購入し、全農場における靴底消毒、車両消毒に加え、消石灰による農場進入路の消毒。

（２）宮崎県への鳥取県職員(獣医師等)の応援派遣　１６名（１３名派遣済、３名派遣予定）
①派遣状況：５月　８名派遣済み　　６月　５名派遣済み（６月中にさらに３名追加派遣予定）
②業務内容：殺処分・埋却・ワクチン接種等の防疫業務、疑い農場の病性鑑定 及び作業補助等

（３）種雄牛・凍結精液の分散管理
①種雄牛等の退避：種雄牛３頭、繁殖雌牛２０頭を鳥取市国府町の民間農場に退避(7/1 予定)
②凍結精液の移動：凍結精液の一部を東部・中部・西部総合事務所に保管(6/15 移動済み)

（４）その他
報道機関への情報提供の際には、畜産物への風評被害防止についての協力をお願いしています。

鳥取県口蹄疫防疫対策本部体制図

目的:
①迅速・確実なまん延防止
②県民の混乱防止
③風評被害の防止

鳥取県口蹄疫防疫対策本部

設置基準:
発生時又は近県発生時

本 部 長 :知事
副本部長 : 農林水産部長、防災監、生活環境部長、
本部員:各部局長、警察本部警備部長
事務局長 : 畜産課長

県本部会議

防疫対策チーム
(チーム長:畜産課長)
家畜防疫対策の実施

- 総務班
- 情報班
- 防疫指導・病性鑑定班
- 防疫支援班
- 流通調査班
- 庶務班
- 専門相談窓口

総合対策チーム
(チーム長:農政課長)
防疫対策の後方支援

農政課、危機管理チーム、広報課、人事企画課、水・大気環境課、循環型社会推進課、公園自然課、農地・水保全課、県土総務課、県土企画課、空港港湾課、交通政策課

経済対策チーム
(チーム長:経営支援課長)

経営支援課、県民課、交流推進課、健康政策課、くらしの安全推進課、経済通商総室経営支援室、食のみやこ推進課、教育総務課、スポーツ健康教育課

農林水産省 ― 協議・調整

専門家会議 ― 助言・検証

警察本部 ― 協力

自衛隊 ― (派遣要請)

協力要請

指示・報告

現地対策本部

設置基準:
発生時又は近県発生時

本部長 :総合事務所長

現地防疫チーム
(家保・役場内など)
チーム長:家畜保健衛生所長
副チーム長:畜産課課長補佐(技)

- 総務班:
  県防疫対策チームとの連絡調整
  防疫作業従事者動員受入調整
  必要防疫資材のとりまとめ
- 病性鑑定班:
- 発生地班:
- 評価班:
- 検診班:
- 追跡班:
- 移動規制班:

現地総合対策チーム
(総合事務所内)
チーム長:県民局長、福祉保健局長、生活環境局長、農林局長、県土整備局長

- 総務班:外部及び所内連絡調整
  現地防疫対策チームへ動員者派遣調整
  一般相談窓口
- 農林班:埋却係る土木工事等の指導、専門相談窓口
- 生活環境班:焼却・埋却・環境影響に関する助言と畜場、化製場に係る指導、食品安全
- 福祉保健班:防疫従事者等健康管理
  専門相談窓口
- 県土整備班:消毒ポイント設置、埋却溝掘削に係る助言

支援

市町村
- 現地防疫活動(と殺、埋却、消毒等)への協力
- 埋却場所等の協議と地域住民への説明会への協力
- 発生地周辺の通行制限又は遮断、標示、住民への説明
- 住民への正しい知識の普及、情報提供、説明、広報
- 相談窓口の設置
- その他必要な事項

現地連絡調整会議

関係団体
- 現地防疫活動(と殺、埋却、消毒等)への協力
- 風評被害の防止
- その他必要な事項

実行 → 発生農場、制限区域内でのまん延防止措置

対応 → 県民の混乱・風評被害

平成２２年漁期クロマグロ水揚げ状況について

平成 22 年 6 月 21 日
境港水産事務所

境港では６月１日の初水揚げをかわきりにマグロシーズンが本格化、日本海に漁業許可を持つ大中型まき網７船団（６都県）が操業を開始、前年を上回る順調な滑り出しとなっている。

1　概況

- 今漁期の初水揚げは６月１日で過去２番目に早い水揚げ。
- 水揚量は６月 17 日までの集計で 301 トン（対前年比 239%）、水揚金額３億 9,900 万円（対前年比 242%）と順調。
- 漁場は石川～秋田県沖の日本海に形成され、漁獲サイズは 9～74kg（平均 28.0kg）と例年に比べて小型魚が中心。

〈まき網による境港のクロマグロ水揚状況〉

期日	本船名	船籍	水揚量（トン）	金額（百万円）	平均単価（円）
6月1日	21たいよう丸	東京	41.7	60.3	1,448
6月3日	21たいよう丸	東京	19.3	30.5	1,579
6月4日	21たいよう丸	東京	19.5	27.1	1,393
6月10日	63惣宝丸	青森	22.9	37.5	1,638
6月15日	63惣宝丸	青森	44.1	66.3	1,504
6月16日	3蛸島丸	石川	20.9	33.5	1,603
6月17日	21たいよう丸	東京	74.4	81.9	1,100
6月17日	18輪島丸	石川	41.2	44.2	1,072
6月17日	18光洋丸	鳥取	16.7	17.8	1,067
累計	9		301	399	1,327

〈水揚量・金額の対前年比〉

区　分	22年	21年	対前年比	対前年増減
水揚量（トン）	301	126	239%	175
金額（百万円）	399	165	242%	234

※22，21年ともに6/17現在で対比

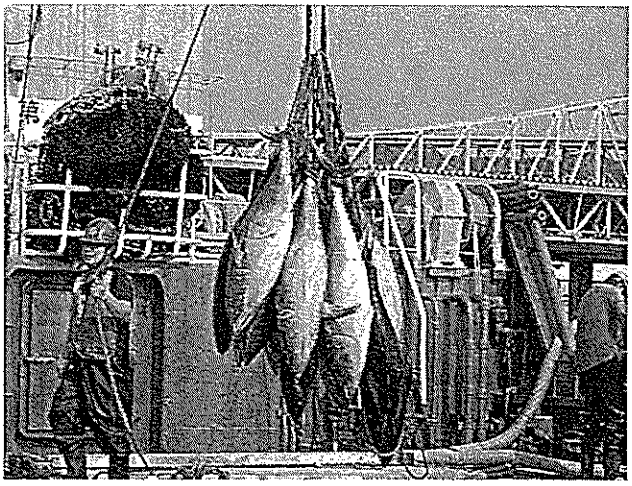
2　他県の水揚状況

七尾、蛸島、輪島（石川県）：まき網 75 トン（6/16 現在：石川県水産総合センター調べ）
塩釜（宮城県）：まき網 23.3 トン（6/16 現在：漁業情報サービスセンター調べ）

3　今後の見通し（水産試験場）

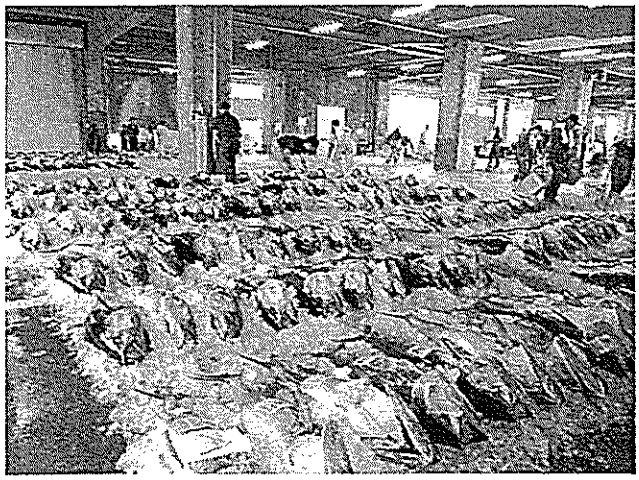
- ６月中は引き続き日本海中北部に漁場が形成され、小型魚（30kg 前後）を中心とした水揚げが続く。
- ７月以降は水温の上昇に伴い山陰沖～能登半島沖で中大型魚が漁獲される。
- 近年、中大型魚の水揚量は少なく、小型魚主体にほぼ前年並みの水揚げになると考えられる（前年：878 トン）。

境漁港における６月１７日の水揚状況



・本日は運搬船３隻が入港し、水揚量 132 トンと今期最高の水揚げとなった。

・また、地元船の今期初の水揚げもあり、市場は一層の盛り上がりを見せていた。



・市場では３隻同時に水揚げしており、通常は沿岸ものが並ぶ場内にもマグロが並んでいた。

・市場は漁業関係者をはじめ、市場関係者、報道機関など大勢の人であふれ活気に満ちていた。

・魚体は徐々に大きくなって来ているが、この日も 20，30kg 台の小型魚が中心であった。

・今期から境港天然本マグロのＰＲ活動として、ブランドステッカーを貼って出荷している。